



様式第3号 (第8条関係)

事業者達成状況報告書

22年7月31日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷306-1  
 氏名 コカ・コーラボトラーズジャパン(株)大山工場  
 松尾 政司  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項 (第9条第3項) の規定により次のとおり提出します。

住所 (主たる事業所の所在地)	鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷306-1						
氏名 (名称及び代表者の氏名)	コカ・コーラボトラーズジャパン(株)大山工場						
主たる業種	10 飲料・たばこ・飼料製造業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者						
計画期間	2019年4月 ~ #####						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (H30) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (R3) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率	報告年度 (実績) (R3) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量 (1)	8,960.6 t	8,870.0 t	△ 1.0 %	6,795.0 t	△ 24.2 %	
実績に対する自己評価		・2019年高圧コンプレッサを更新し、電力削減に貢献 ・空調機関連の随時更新による電力削減 ・殺菌装置の温度低減を社内プロジェクトにて実施					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率	報告年度 (実績)	増減率
		二酸化炭素換算	67 t-CO2/L	66 t-CO2/L	△ 1.5 %	51 t-CO2/L	△ 23.9 %
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
実績に対する自己評価		・CO2排出量の削減は継続して進めることができ、今後も同様に省エネ活動を実施する。 ・少しずつ、削減効果が少なくなっていくことも考えられるが、新技術導入やPPAの検討など前向きに取り組む。					
寄与的取組	取組区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)		
		実数値	二酸化炭素換算の削減量	実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量) kWh (熱供給量) GJ	t	(売電量) kWh (熱供給量) GJ	t		
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)	t	-	t		
	森林保全による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	-	t	-	t		
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)	t	(購入量) GJ	t		
	削減量等合計 (2)		0 t		t		
差引排出量 (1) - (2)	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)		
	8,960.6 t	8,870.0 t	△ 1.0 %	6,795.0 t	△ 24.2 %		
推進体制	・社内プロジェクト (省エネ活動) を今年も継続して立ち上げる。 ・各ポンプ等のINV化 ・自動停止モードや、省エネモードなどのプログラム内製 ・製造機器洗浄の見直し、廃止、短縮による、エネルギー削減 など ・設備投資による機器更新を可能な限り実施。 ・太陽光PPA、空調機更新、チラー更新、ボイラー更新、LNGサテライトの検討 など						
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容				
	4	製造設備	INV化、省エネモード追加				
	5	洗浄工程	見直し、廃止、短縮の検討				
	6	各所	太陽光PPA、空調機更新、チラー更新 ボイラー更新の検討、LNGサテライトの検討				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・コロナ影響にて、森林保全活動は未実施						

特記事項

- 注1 該当する口には、レ印を記入してください。
- 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
- 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
- 4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
- 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
- 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
- 7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。